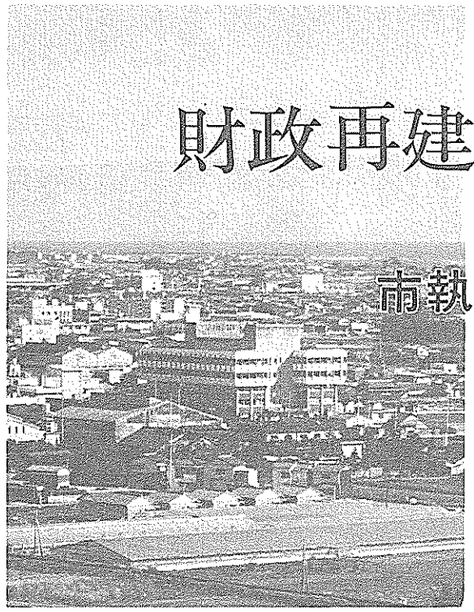
財政再建審議会が再開

市執行部の説明をうける



深刻な危機に直面した市財政を再建するため、昭和五十一年一月、『南国市財政再建審議会』を設置、以来二十数回の会合が行われています。

再建審議会が設置された当時をふり返ってみると『四十九年度に三億四千万円。五十五年度でも歳入欠陥などの赤字の要因が約六億円、あわせて約九億円の赤字が見込まれる』と、苦しかった財政事情がうかがえます。

昨年十月の市議会議員選挙に伴う十一月の組織議会以降空席となっていた南国市財政再建審議会の委員十五名を九月一日付けで委嘱、九月十二日、一年ぶりの会合が市役所五階委員会室で開かれました。

この日は委員十五名のうち十三名が出席、会長に松木二郎氏、副会長に吉村雅男氏（いずれも再選）が選ばれたあと、市執行部から①四十九年から五十四年までの一般会計収支②開発公社と市の負債関係③南国市と県下九市の経常収支比率の比較④開発公社への支払計画など、現在本市が置かれている『財政事情』の報告がありました。

市の台所状況

◪一般会計収支をみると……

四十九年度には三億四千六百万円の一般会計の赤字も、税収の伸びや節約の励行によって、五十三年度に二億二千二百万円、五十四年度には一億一千五百万円、五十五年度には五億二千六百万円と増加になりました。しかし、開発公社の金利が五十一年から五十四年までに五億二千六百万円と増加し、一般会計で、財政再建が始まった五十一年から五十四年までの赤字解消額八億一千万円も、開発公社で増加した金利を差引くと、実質四年間で約三億円の赤字解消でしかなかったことになります。

◪開発公社に対する市の負債は……

五十四年度末に約二十一億円あった負債は、金利などの増加によって五十四年度末には約二十七億円になりましたが、そのうち北部運動公園用地分は売却によって解決を図るので、残りの負債は約十四億円になります。

その間、市が公社に支払った金額は約四億四千万円にのぼりますが、負債金額が億単位であるため金利の増加が大きく、赤字解消にはまだ長い年月がかかりそうです。

◪南国市の経常収支比率は……

五十三年度を見てみると、南国市は八五・四％（人件費四二％、扶助費一〇・九％、公債費一五・四％、その他一七・一％）となっており、県下九市の平均七九・五％よりも高くなっています。健全財政は、この経常収支比率を少なくとも七〇％台に引き下げることが重要だといわれています。

※経常収支比率とは……地方公共団体の経常的経費（人件費、物件費、維持修繕費、扶助費、補助費および公債費などのうち臨時的なものを除いた経費）のために、経常的一般財源（普通税、地方譲与税、普通交付税など）がどれだけ充用されたかを示す比率を％であらわしたもの。

経常的経費は、地方公共団体の経費のうちでも容易に縮減できない固定的、義務的性格の強い経費です。したがって、経常収支比率は地方公共団体の財政構造の良否を判断する指標に使われ、普通七〇～八〇％に分布するのが標準的とされています。

◪開発公社への支払いは……

五十四年度現在、約十四億円あるる負債を毎年二億円払うとすると、金利負担がかさんで六十五年までかかり、二十一億円にのぼる多額の金がいることになります。

◪これからの財政再建の道は……

数字的な赤字の解消だけではなく、財政事情をよくすること（経常収支比率を七〇％台に引き下げることなど）が大切で、税金を有効に市民のために使うことに心がけなければなりません。

保育所や小学校などの文教施設の改築、同和対策事業の集中的な実施、し尿処理施設の建設など、多額の金を使う公共投資が目白押しで、ひと口に財政再建といってもなみたいていのことでは達成できません。

また、人件費の節約も必要だし、行政範囲を広めた（何んでも市がやらなければならない）風潮の見直しもみのがせません。

南国市が自力で金を生みだし、文字どうりの健全財政で行政をストップさせないためには、今の超過税率（法人市民税、固定資産税）の引き下げは現在ではむつかしく、『南国市の将来計画』をつくって財政に負担のかからないように計画的に事業を行うことや節約によるほかにないといえるようです。

久しぶりに開かれた再建委員会も、今回は市執行部からの現状報告にとどまりましたが、次回には具体的な諮問案が提出できるようにと委員から要請がありました。

これからの財政再建はどうあるべきか……。南国市の〝自主再建〟の具体策が年内には示されようとしています。

▣南国市財政再建審議会（委員十五名、任期二年、◎印＝会長、○印＝副会長）

◎松木二郎、○吉村雅男、竹内淳輔、徳橋一郎、門田益治、土居菊雄、小沢正澄、島内正雄、浜田健夫、溝渕正、野口幸重、橋本一二三、島崎秋水、岩原栄喜、竹田広実

教育相談余話④

友達の物を隠す子ども

南国市教育相談所　高石文一

『五歳の男の子です。保育所で友達の物を隠して困ります。かなり手のこんだ隠し方をするので心配です。どうすればよいでしょうか。』『友達の物を隠しておいて、後で自分が使っていますか。』

『いいえ、隠しておくだけです。』

『どんな物を隠していますか。』

『それは何でも友達の大事にしているものです。』

『よそでは』

『保育所だけです。』

『お母さんはいつからお勤めですか。』

『結婚前から会社勤めです。二歳の時託児所に、三歳から保育所でお世話になっています。』

『このお子さんは、自分は友達に比べて不幸なもの、との感じを持っています。それで、友達を不幸にして自分とのつり合いをとろうとしているのです。

ご家庭の事情はいろいろあるでしょうが、二歳ぐらいの子どもで母親がそばにいないのは寂しいことです。

お母さんがお勤めの子どもに、みな問題が出てくるということはありませんが、子どもは寂しい気持ちでいることは知ってやらねばなりません。友達に比べて自分は不幸なものとの感じを持っていることが、このような形で現れてくることがあるものです。』

『母親として、どのようにすればよいのでしょうか。』

『できるだけ子どもさんと過ごす時間を多くすることを考えてください。

ここには、その変わり方を検査する機械の設備はありません。機械のかわりを人間の目がするのです。

そして、少しでもよくなったことがあれば、それを認めて喜んであげてください。何もいちいち口に出して言わなくてもいいのです。俳優でもないお母さんが、どんなに上手にほめてやろうか、などと気を使うことはありません。ただ本心から喜んであげることです。親と子の間です。それは通じます。また、決してうそを言わないことです。よいことが認められないのに、よい子になった、などと言ってはなりません。だから、よく気をつけて見ていることです。』

……一週間後。

『〝教育相談所は楽しい、教育相談所に行きたい〟と言って子どもがきません。まだ一週間しかたってないのに保育所でもたいへん変わって明るい子になりました。

保母さんにも〝教育相談所で何をしているのだろう、見に行きたい〟と言われました。』

『よかったですね。けれど、ここでは格別変わったことができるわけはありません。検査の機械もありません。薬もありません。けれど子どもは変わっていきます。

子どもは、お母さんと来るのが楽しいのです。お母さんが自分のためにこんなにまでしてくれる。お母さんの愛情がしみじみと身にしみこんで、ゆがんだ心をときほぐしてくれるのです。

教育相談所に行こうと先に立つお母さんの後姿には、子どもを思う親のかなしみがにじみ出ています。それは声を出しません。声を出さないからこそ、子どもの心の奥底にしっかりとした場を占めていくのです。』

それから、もういいですよ、と言うのにこの親子は通って来た。子を育てる機微をこのお母さんはわかってくれたようである。

阿佐線対策調査

特別委員会が発足

これまでの経過や今後の計画などを聞き、委員会の方針を決めることになりました。

▣阿佐線対策調査特別委員会（委員十名、◎印＝委員長、○印＝副委員長）

◎高島邦明、○岡林保、山本昇、島崎秋水、北岡益貴、今井成子、島内正雄、竹田広実、岩原栄喜、吉村雅男